

1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株>



<米国株>



<円/ドル>



(注)チャートは過去1年

	単位	2012/12/28	2013/5/31	2013/5/31	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	10,395.18	13,774.54	13,774.54	15,942.60	2013/5/23	8,135.79	2011/11/25
NYダウ	ドル	12,938.11	15,115.57	15,115.57	15,542.40	2013/5/22	9,614.32	2010/7/2
円/ドル	円	85.96	100.45	100.45	103.74	2013/5/22	75.35	2011/10/31

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

大幅続落。日経平均は14,000円を割込む。

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲837.91円(▲5.73%)、TOPIXが▲58.30ポイント(▲4.88%)と大幅続落となり、日経平均は14,000円を割込みました。業種別(東証33業種)にみると、パルプ・紙、海運業、鉄鋼などを上位に全業種が下落しました。週明け27日の日本株市場は、先々週末にかけて100円台まで円高ドル安が進んだことなどを受けて大きく下げて始まった後、終日安値圏で推移しました。その後週央にかけては、円高ドル安の動きに一服感がみられたことや米国株市場が上昇したことなどを受けて輸出関連株中心に押し目買い優勢の動きとなり、反発に転じました。しかし週末にかけて、①米国株市場が市場予想を上回る経済指標の発表を受けてQE3(量的緩和第3弾)早期縮小への警戒感が高まったことから下落したこと、②再び100円台まで円高ドル安が進んだことなどから、売り優勢の展開となり、日経平均は14,000円を割込んで引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目		前回
6月3日	Mon	日本	法人季報設備投資(前年比)	1-3月期	-8.7%
		米国	ISM製造業景況指数	5月	50.7
		中国	HSBC製造業PMI	5月	50.4
6月4日	Tue	米国	貿易収支	4月	-388億ドル
6月5日	Wed	米国	ADP雇用統計	5月	119千人
			製造業受注指数	4月	-4.9%
			ISM非製造業景況指数(総合)	5月	53.1
			ページブック(地区連銀経済報告)		
6月6日	Thu	欧州	ECB(欧州中央銀行)定例政策委員会		
6月7日	Fri	日本	景気一致CI指数	4月	93.8
			景気先行CI指数	4月	97.9
		米国	非農業部門雇用者数変化	5月	165千人
			失業率	5月	7.5%
6月9日	Sun	中国	CPI(消費者物価指数)(前年比)	5月	2.4%
			鉱工業生産(前年比)	5月	9.3%

当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 13,000円をメドに下値模索が続く ~

今週の日本株市場は、QE3の早期縮小観測から先週末の米国株市場が大きく下落したことを受けて軟調に始まった後も、米国の重要な経済指標を睨みながら、日経平均で13,000円をメドに下値模索が続くと予想しています。ただ、4/2の安値(11,805円)から5/23の高値(15,942円)までの半値押しを下回ってきたことや、25日移動平均(5/31現在14,427円)からの乖離も▲5%に近づいてきているなど、売られ過ぎの指標も散見されてきたことから、先週や先々週のような一方的で大幅な下げはないのではないかとみています。経済指標では、米国で3日に発表されるISM製造業景況指数、5日のADP雇用統計、ISM非製造業景況指数、ページブック、7日の雇用統計、中国では9日のCPI、鉱工業生産、日本では3日の法人企業統計(法人季報設備投資を含む)などが、会議日程では、6日のECB(欧州中央銀行)定例政策委員会が重要と考えています。